



協同30年



「お互いさまの組織、 助け合いの組織」 としての役割をさらに



和歌山県生活協同組合連合会

会長理事 久保田 泰造

和歌山県生活協同組合連合会は、ここに創立30周年を迎えることができました。ひとえに多くの組合員や協力団体の皆様、行政のご指導や諸先輩方のご尽力の賜物と感謝申し上げます。

和歌山県生活協同組合連合会は、1990年9月に、県内6生協が協同して設立され、全国で46番目の生協連合会として出発しました。現在11生協・組合員数24万人に達しており、県内では最大の消費者団体となっています。会員生協は、現在、地域購買生協が3生協、医療・福祉生協が3生協、共済生協が1生協、職域生協が2生協、そして大学生協が2生協となっており、生活の安定と生活文化の向上(生協法の目的)のために、多種多様な事業と活動を展開しています。

しかし今年も、新型コロナウイルスの影響で生協の活動も制限され、あらためて「生活協同組合」とはと考えさせられます。

日本の生協誕生の中心となった“生協の父”といわれる賀川豊彦は「生協はお互いさまの組織、助け合いの組織」と言いました。1954年、「一人は万人のために、万人は一人のために」の社会を実現するための「協同組合の中心思想」を7つの短い言葉で表現された豊彦の揮毫が残されています。

【利益共楽】生活を向上させる利益を分かち合い、ともに豊かになろうとする。

【人格経済】お金持ちが支配する社会ではなく、人間を尊重した経済社会へ。

【資本協同】労働で得たお金を出資し合い、生活を豊かにする資本として活かす。

【非 搾 取】みんなが自由と平等で利益を分かち合う、共存同栄の社会をつくる。

【権力分散】全ての人が人間としての権利を保障され、自立して行動する。

【超 政 党】特定な政党にかたよらず、生活者や消費者の立場で考え主張する。

【教育中心】豊かな生活には、一人ひとりの教養とそれを高めるための教育が重要。

以上をよく学び、私たちの活動を改めて見直してみることも必要でないかと考えます。

2015年、国連が定めた「持続可能な開発目標(SDGs)」では、「だれ一人取り残さない」ことを原則に、貧困や不平等の解消、持続可能な経済・社会の実現、地球環境の保全など17の目標が決められ、私たちの生協とその理念や事業・活動の多くが重なり合います。2016年には協同組合の思想と実践が評価され、ユネスコの「無形文化遺産」に登録されました。和歌山県では、2005年から協同組合デーなどを通じて農協・漁協・森林組合との協同組合間協同が発展してきましたが、2018年日本協同組合連携機構(JCA)も発足しました。和歌山県生活協同組合連合会は、行政や協同組合、他団体との連携を強めながら、さらに安心して暮らすことのできる地域社会の実現に向けて役割を担ってまいります。

今後とも皆さま方のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

目次

「お互いさまの組織、助け合いの組織」としての役割をさらに
和歌山県生活協同組合連合会 会長理事 久保田 泰造…………… 1

祝辞
和歌山県知事 仁坂 吉伸 …………… 2

祝辞
日本生活協同組合連合会 代表理事会長 本田 英一…………… 3

和歌山県の生協(県生協連合会生協)…………… 4

和歌山県生協連のとりくみ、30周年のあゆみ…………… 5

会員生協紹介 …………… 8

和歌山県生活協同組合連合会 創立30周年を祝して

和歌山県知事 仁坂 吉伸



この度、和歌山県生活協同組合連合会が創立30周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げますとともに、皆様の御活躍が綴られた記念誌が発刊されますことに心からお祝い申し上げます。

和歌山県生活協同組合連合会は、県内生協の連携を強め、協同組合精神に基づく生協の事業と運動をさらに発展させることを目的として、平成2年9月に県内の6生協が協同して設立されました。現在では11組合に発展され、購買、医療、福祉、共済など多岐にわたる日頃の活動を通じ、県民生活の安定と生活文化の向上に大きな役割を果たしておられることに厚く御礼申し上げます。

現在、会員組合が擁する組合員数は約24万人にも達し、県内最大の消費者団体としての社会的使命から、消費者被害防止のための講座や学習会の開催などの消費者啓発をはじめ、環境保全活動の一環として食品ロス削減の取組、被災地産品の販売による復興支援、食文化の伝承などの食育の推進、生協連30周年イベントでは平和学習として被爆ピアノをテーマにした映画上映会を開催されるなど、様々な分野における社会貢献活動を精力的に展開しておられることに対し、深く敬意を表します。

また、県内の生協間のみならず、他の協同組合とも協同して活動の場を広げられ、加えて、全国や近畿の連合会とも連携され、広域的な視点からもより良い暮らしにつながる取組に尽力しておられることは、誠に心強い限りです。

一方で、サービス産業の発達や情報伝達技術の進展に伴い、消費をめぐる様々な問題が複雑化・多様化する中で、県消費生活審議会や食の安全県民会議、和歌山県食育推進会議に参画いただき、県民が安心して暮らせる社会づくりに御助力いただいております。さらに、大規模災害時における救援物資の供給協定の締結や、毎年開催している津波災害対応訓練への御参加など、非常時における備えにも積極的にお力添えいただいておりますことに、重ねて御礼申し上げます。今後とも、誰もが安心して暮らせる和歌山の実現に御協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、この記念すべき創立30周年を節目として、より一層、会員間の活動の連携と交流が促進され、貴連合会が限りない発展を遂げられますとともに、会員の皆様の益々の御活躍と御健勝、御多幸を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

創立30周年を迎えて

日本生活協同組合連合会

代表理事会長 本田 英一



和歌山県生活協同組合連合会の創立30周年にあたり、全国の生協の仲間とともに心よりお祝い申し上げます。創立以来、多くの困難の中で歴史を積み重ねてこられた皆様のご苦労とご努力に対し、心より敬意を表します。

貴連合会は、1990年に県内6生協による創立以後、時代環境の変化の中で、地域購買生協、医療・福祉生協、職域生協、共済生協、そして大学生協と様々な会員の皆様と共に協同・連帯の基礎を築いてこられました。

また、地域のさまざまな諸団体とつながりながら、食の安心・安全を守る活動、環境活動、平和の取り組み、安心して暮らせる地域社会づくり活動、福祉・健康活動など暮らしを守る活動に取り組み、今日、11生協の皆様と共に30周年を迎えられました。

日本生協連の2018年通常総会では、特別決議「コープSDGs行動宣言」が採択されました。全国の生協では、持続可能な生産と消費、健康づくり、防災・減災、環境保全、子どもや子育てを支援する活動が、組合員の皆さんに参加いただきながらさらに広く取り組まれています。

今後、少子高齢化、人口減少が急速に進み、地域間の格差や経済的な格差の拡大など課題は多様化し、深刻化していきます。こうした課題解決にむけ、ますます様々な組織が連携し、取り組んでいくことも求められています。2018年の日本協同組合連携機構(JCA)の発足を契機に、異なる協同組合同士での連携の意識も高まり、相互の交流もさらに進んでいます。

今、新型コロナウイルス感染症の拡大という世界に大きな影響を与える事態が継続している中で、協同組合が大切にしてきた「人と人とのつながり」をつくるのがたいへん困難な状況になっています。このような時こそ、新しい形の「つながり」を模索しつつ、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」取り組みを、組合員、会員生協の皆様にご協力をいただきながら、地域の自治体をはじめ様々な組織や団体の皆様と連携し進めていきたいと存じます。

30周年を迎え、これからも、貴連合会が会員生協、組合員の皆様と共に力を出し合い、よりよい地域の未来に向けてますます力強く発展されますことを祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

購買生協

地域生協

わかやま市民生協、泉南生協、コープ自然派おおさか

宅配や店舗の事業を通じて、毎日の暮らしに必要な商品やサービスを組合員に提供する、地域を活動の場とする生協です。多くの生協では、さらに共済事業や福祉事業を展開し、組合員のよりよい暮らしと社会のため、さまざまな活動に取り組んでいます。

職域生協

和歌山県学校生協、メルシー生協

職場を共有する人々の生協です。学校生協は和歌山県内の小、中、高校、特別支援学校などの教職員や退職された教職員が組合員です。職場で働く社員や職員の福利厚生施設としての役割を担うとともに、職場内の店舗の運営や職場単位の班供給事業をしています。

大学生協

和歌山大学消費生協、和歌山県立医科大学生協

大学の学生、院生や教職員を組合員とする職域生協です。学習・研究用品や日常生活・食生活、書籍の供給、食堂、旅行、共済など、大学のあらゆる場面でサポートする多彩な事業活動をしています。

医療・福祉生協

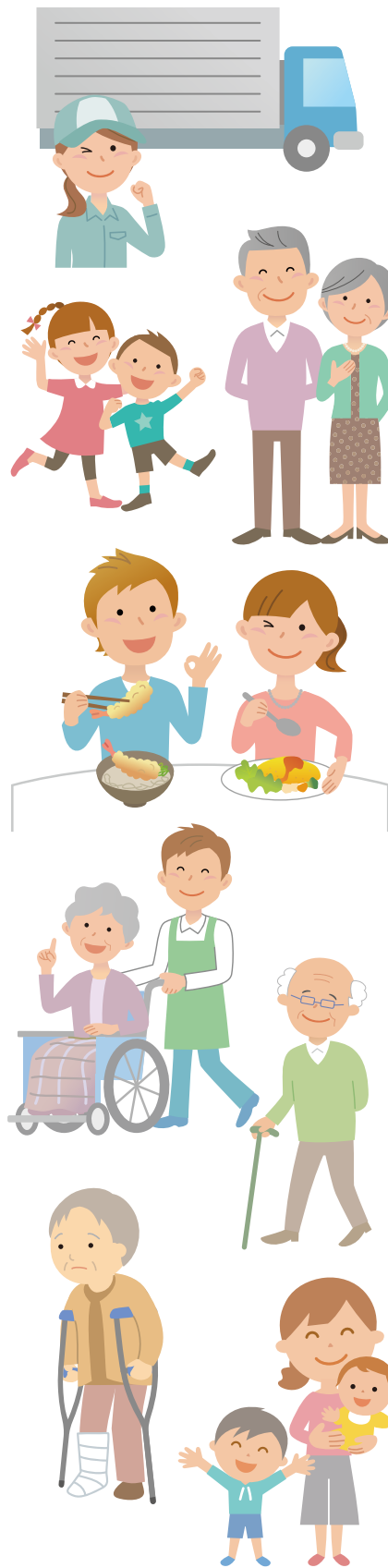
和歌山中央医療生協、紀の国医療生協、和歌山高齢者生協

医療・福祉事業を行なう生協です。病院・診療所だけではなく、現在は訪問看護や介護の事業も行っています。組合員や地域住民の暮らしをサポートし、安心して住み続けられるまちづくりに取り組んでいます。また、組合員活動として、健康づくり、助け合い、サロン活動など地域まるごと健康づくりをめざしています。

共済生協

和歌山県労働者共済生協

組合員相互の助け合いによる共済を主たる事業とする生協です。組合員は手頃な掛け金で共済加入ができて、必要な時に保障を受けることができます。組合員の生活を守り、豊かな社会づくりのため、総合的な生活保障をめざした取り組みがすすまられています。



県民の暮らしと健康を守る社会的諸課題

暮らしに関わる活動

○安心して暮らし続けられる地域づくりの一環として、子どもたちや子育て、暮らし全般を応援するなどの活動に取り組んでいます。



0歳児からの音楽会



郷土料理と日本型食生活講演会



映画上映会と被爆ピアノコンサート

○会員生協が行うボランティア活動に助成を行っています。



わかやま市民生協
「和コープ」



紀の国医療生協
「年末餅つき大会」



学校生協
「福島っ子のびのび体験」



和歌山高齢者生協
「いっぴく亭紀和庵お餅つき」

防災・災害支援の活動

○2011年9月の台風12号の災害に際しては全国の生協から寄せられた義援金1700万円を和歌山県に贈呈しました。



○2017年東日本大震災・熊本大地震復興支援企画として前進座「怒る富士」公演に取り組みました。

消費者に関わる活動

○和歌山県消費生活審議会、和歌山県食の安全県民会議、和歌山県食育推進会議をととして、消費者の立場から意見反映をすすめています。

○消費者ネットワークわかやまの団体会員、特定適格消費者団体 消費者支援機構関西 (KC's) の正会員団体として、消費者が安心して暮らせる社会づくりに向けて消費トラブル防止に関する様々な啓発活動に参加しています。



消費者ネットワーク 公開学習会

会員生協間の事業と活動の連携と交流

○年に一度、会員生協の役員・組合員が一堂に会する生協大会で、20年永年勤続表彰、記念講演を開催しました。役員とその家族と一緒にボウリング大会などで交流と連帯を深め、県内における今後の生協の活動の発展につなげています。



生協大会



20年永年勤続表彰



役員交流会

○役員らの活動や事業運営に役立つ研修会などを開催しています。



役員研修会
(賀川記念館と人と防災未来センター見学)



福祉活動交流会
(居場所づくり交流会)



事業所見学
(新日鐵住金和歌山製鐵所)

行政ならびに関係諸団体との連携・交流

○毎年、県民・組合員が安心してらせる地域社会づくりのため、県へ消費者行政や福祉・介護施策、食育などさまざまな課題について要望書を提出し、丁寧な回答をいただいています。課題解決に向けてさまざまな分野で行政との連携をすすめています。



和歌山県へ要望書を提出



回答を受け取り、懇談

○和歌山県と「災害救助物資の調達に関する協定」を結び、毎年県の訓練に参加するなど連携して取り組みをすすめ、関西広域連合「関西災害時物資供給協議会」にも参加し、図上訓練やワークショップにも参加しています。また、和歌山県災害ボランティアセンターの協力団体として、県市町村社協とともに災害に備えた方策の検討を図っています。



物資輸送・災害情報収集伝達訓練



関西災害時物資供給協議会設立総会



VC広域・同時多発災害対応訓練

○年に一度、行政と生協関係者が一堂に会し、「安心してらせる地域社会づくり」などをテーマに、省庁や行政の報告、講師を招いての講演、近畿地区生協府県連それぞれの報告などから質疑や意見交換する生協・行政合同会議に参加しています。



生協・行政合同会議

○和歌山県労働者福祉協議会の構成団体として、会が主催する様々な活動に参加しています。



労働者福祉まつり



和歌山大学経済学部寄付講義

○近畿ろうきんのとりくみにも協力し、社会貢献プロジェクトやシンポジウムに取り組みました。



プライベート美術館



第4回協同シンポジウム2016 in わかやま

協同組合間協同の前進をはかる活動

○2005年第1回国際協同組合デーin和歌山を県内4つの協同組合（和歌山県農協中央会、和歌山県生協連、和歌山県漁連、和歌山県森連）で開催。2013年からは和歌山県協同組合組織連絡会を立ち上げて開催しています。



国際協同組合デー in 和歌山



県内一斉クリーンウオーク



生協まつりへ出店



SDGs学習会[SDGsってなんだ]

- 1990年 6生協(和歌山中央医療生協、わかやま市民生協、和歌山県学校生協、和歌山大学消費生協、和歌山県労働者共済生協、柏木消費生協)の参加のもと設立。全国で46番目の生協連合会として出発
- 1991年 オレンジコープ・和歌山生協加入。和歌山県勤労者住宅生協加入
- 1995年 和歌山県労働者福祉協議会に加盟
- 1996年 和歌山県食肉公正取引協議会に加盟
- 1997年 高野山大学生協加入。紀の国医療生協加入
- 1998年 和歌山県消費生活審議会委員の委嘱要請受け、派遣
和歌山県立医科大学生協加入。柏木消費生協解散にともない脱退
- 2001年 和歌山高齢者生協加入
- 2002年 災害救助物資の調達に関する協定書の締結(和歌山県と市民生協、県連との3者協定)
JA中央会よびかけによる「消費者と生産者の交流フォーラムinわかやま」に参加
- 2003年 和歌山県食の安全県民会議委員の委嘱要請受け、派遣
- 2004年 県行政、県内協同組合、マスコミ、消費者団体、学識者が構成する「わかやまの農林水産業を考える会」発足、参加
- 2005年 適格消費者団体 NPO法人消費者支援機構関西 設立 正会員として加入
第1回国際協同組合デーin和歌山の開催
- 2006年 和歌山県食育推進会議委員の委嘱要請受け、派遣
- 2009年 オレンジコープ・和歌山生協 泉南生協との合併に伴う解散、脱退
- 2010年 泉南生協 加入
- 2011年 住友金属和歌山生協 加入
- 2012年 生活協同組合コープ自然派和歌山 加入
- 2013年 消費者庁 消費者支援功労者表彰「ベスト消費者サポーター章」を受章
和歌山県協同組合組織連絡会発足
高野山大学生協 解散にともない脱退
- 2018年 生活協同組合コープ自然派和歌山
コープ自然派おおさかとの合併に伴い脱退の後、生活協同組合コープ自然派おおさかとして再加入
- 2020年 現在11生協、組合員総数24万5000人、総事業高295億円

生協連
30年の
あゆみ

和歌山県 生協連合会の 会員生協紹介

※数値は2020年3月現在
※泉南生協、コープ自然派おおさかは
和歌山県内の数値です。

30



和歌山中央医療生活協同組合

- ▶組合員数：23,348人
- ▶総事業高：3,481,036千円
- ▶住所：和歌山市有本143-1

和歌山中央医療生活協同組合は、1954年に設立され、現在に至っては、和歌山市、岩出市、海南市に病院と診療所、老健施設、介護事業所など、医療と介護を中心に14か所で事業を展開しています。また、誰もが安心して暮らし続けられるよう、健康づくりとまちづくりも積極的にすすめています。

設立から60余年、「健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくる。」を合い言葉に、地域のみなさまとつながり・支えられて、協同の輪を広げています。



わかやま市民生活協同組合

- ▶組合員数：96,538人
- ▶総事業高：12,123,433千円
- ▶住所：和歌山市太田三丁目10番10号

わかやま市民生活協同組合は、1980年10月に創立し、今年40周年を迎えました。ひきつづき、県内全域を対象とした宅配事業を中心に、和歌山市と岩出市にあるコープのお店、共済事業、社会的役割を果たす活動などを通じて、県民（組合員）の暮らしに貢献し、安心してくらす地域社会づくりにとりにくんでいます。



和歌山高齢者生活協同組合

- ▶組合員数：4,259人
- ▶総事業高：417,820千円
- ▶住所：和歌山市里198-2

和歌山高齢者生活協同組合は、「人生の完成期、輝いて生きる」を理念に掲げ、麦の郷の障害者運動をベースに設立されました。元気な高齢者の活躍の場を作ろうと、養鶏やPC教室などに取り組んできました。高齢者による社会貢献では、「お助け隊」や「どこ竹わかやま」等が盛んです。介護・福祉事業においては事業の総合化・複合化及び、高齢者だけではなく地域の全ての方（共生社会）を対象とし、活発に取り組んでいます。



和歌山大学消費生活協同組合

- ▶組合員数：4,387人
- ▶総事業高：484,081千円
- ▶住所：和歌山市栄谷930

和歌山大学消費生活協同組合は1985年和歌山大学の現在の栄谷キャンパスへの移転時に設立されました。学生・教職員の皆さんが出資し、利用、運営参加する協同組織として、大学の理解と協力を得ながら和歌山大学の福利厚生事業を担当しています。事業的にはフードサービス事業、書籍購買事業、共済事業、講座事業等大学内における学生・教職員の勉学・生活をサポートしています。



和歌山県立医科大学生活協同組合

- ▶組合員数：1,137人
- ▶総事業高：198,205千円
- ▶住所：和歌山市紀三井寺811-1

1998年に営業を開始した和医大生協は2018年に設立20周年を迎えることが出来ました。2021年4月には新キャンパスで和歌山県初の薬学部が開設され新店舗の開業を予定しています。これから先、25年、30年と組合員をはじめ、地域に根ざし世界でも活躍する医療人を育てるために進む大学とともに、より一層の福利厚生の充実と学生支援に取り組みます。



和歌山県学校生活協同組合

- ▶組合員数：8,922人
- ▶総事業高：155,893千円
- ▶住所：和歌山市小松原通3-20

和歌山県学校生協は、教職員が自分たちの暮らしを守り、豊かにするために、戦後まもなく教職員組合の厚生部として出発し、1955年に設立しました。より良い商品を安く提供し、教職員のくらしと教育活動をサポートするために、チラシ媒体による供給事業と生活全般に渡るサービス関連事業等を行っています。また、平和や環境を守る運動や、「福島っ子のびのび体験」などの活動、災害被災地への支援も行っています。



和歌山県労働者共済生活協同組合

- ▶組合員数：91,125人
- ▶総事業高：10,315,387千円
- ▶住所：和歌山市美園町5丁目10番3

和歌山労済（こくみん共済coop和歌山推進本部）は、1959年に県内の労働組合が中心となって設立されました。1976年には全国の共済生協とともに「全労済」の設立に加わり、「みんなであすけあい、豊かで安心できる社会づくり」という理念のもと、幅広く共済事業を展開しています。また、2019年からは、さらに多くの方々から親しまれる存在となるよう「こくみん共済coop」の愛称を設定しています。



紀の国医療生活協同組合

- ▶組合員数：1,369人
- ▶総事業高：488,252千円
- ▶住所：和歌山市今福2-1-16

紀の国医療生協は1985年6月創立で、今年35周年を迎えました。現在は和歌山市今福・新堀の2か所を拠点として外来・入院診療、指定介護サービス、有料老人ホーム、ボランティアグループ「ほっとクラブ」、紀の国無料塾など組合員及び地域住民の保健衛生・生活の質向上に向けて活動しています。



泉南生活協同組合

- ▶組合員数：1,785人
- ▶総事業高：634,007千円
- ▶住所：大阪府泉南市信達岡中1489-10

泉南生活協同組合は大阪府と和歌山県で供給事業と福祉事業、配食事業を行っています。泉南生活協同組合の設立は1950年。共同浴場の運営を中心とした利用事業が始まりました。和歌山生活協同組合の設立は1980年。2010年に泉南生活協同組合と和歌山生活協同組合が県域を越えて合併しました。2000年、大阪府泉南市に介護付き住宅「みのり阪南」が竣工し、福祉事業がスタートしました。現在、賃貸型介護付き住宅4カ所、サービス付き高齢者向け住宅2カ所、分譲型介護付き住宅3カ所、障害者グループホーム2カ所を運営しており、1,000名近くの高齢者、障害者が暮らしています。



メルスィー生活協同組合

- ▶組合員数：6,597人
- ▶総事業高：550,123千円
- ▶住所：和歌山市湊1850番地

紀州徳川家、虎伏城が中心に聳えたつ和歌山市の北西部。東経135度8分北緯34度14分、そこは「湊」という名の通り昔は大きな川船が往来、紀ノ国中心の港があった場所。そんな歴史の鼓動が波打つ地に、現在は日本製鉄(株)関西製鉄所があります。その製鉄所の数千人の皆様の日々の生活をお手伝いしているのが私達メルスィー生活協同組合。明るい笑顔と『ご安全に』の真心で今日も頑張っています。



生活協同組合コープ自然派おおさか

- ▶組合員数：5,444人
- ▶総事業高：607,392千円
- ▶住所：大阪府茨木市島1丁目12-37

日本の食料自給率はわずか38%。（※カロリーベース2017年度）
コープ自然派では、食の安全を求め、食料自給率の向上を図るには、国内の農業を守らなくてはならないと「国産派宣言」を掲げています。そして、有機農業や生物多様性農業に取り組む生産者との産直を広げ、持続可能な地域循環型社会をめざしています。和歌山県内のコープ自然派組合員は現在6,000人弱。誰もが有機農産物を食べられる社会を目指して、これからも活動します。